

高機能開発材料を拡販

高強度・高延性 ステンレスなど 埼玉に新圧延機

特殊金属エクセル

特殊金属エクセル（本社・東京都豊島区、社長・谷口毅氏）は、世界最高水準の高強度・高延性ステンレス、結晶粒径が平均1ミクロン程度の超微細粒鋼、市場に流通していない特別仕様にグラム単位で対応する高合金材料など、ニッチ分野に特化した高機能開発材料を拡販する。1ミクロンの極微小疵の管理や、1ミクロン単位の板厚公差など、極めて厳格な品質基準が求められる用途に対して、より安定した難製造材の生産体制を整える。このため埼玉事業所（埼玉県比企郡ときがわ町）に2022年10月稼働開始予定で自社開発の冷間圧延機を導入する。20年内に仕様を確定し、21年後半から工事に入る計画。

に活用する。
外観品質の向上で
は、圧延油の清浄度、

油温など微小なパラメータ変化を捉えて安定

管理して、安定的に高水準の品質を実現する。また全製品の板厚ばらつきをさらに抑えることで、より安定的に高精度板厚製品を供給し、顧客の歩留まり向上や作業性向上につながる。

Z-Hiミルは台湾に3台、上海に2台、埼玉で1台増の3台となり、国内外で各種予備品を共有化してコストやリスクを低減する。同型圧延機の体制を拡充することで、有事の際のグループ間製造移管もより速やかになる。

社内設計・工事をメインとするため投資額は約5億円に圧縮する。

新圧延機の製造サイズは板厚0.03〜3ミリ、最大板幅340ミリ。埼玉に圧延機は6台あり、新圧延機導入に合わせて既存機のうち1台を廃却し、1台を緊

急対応用予備機に転換する。Z-Hiミルは台湾に3台、上海に2台、埼玉で1台増の3台となり、国内外で各種予備品を共有化してコストやリスクを低減する。同型圧延機の体制を拡充することで、有事の際のグループ間製造移管もより速やかになる。

難製造材を安定生産

22年10月稼働開始

新圧延機（Z-Hiミル）ではインライン板クラウン量測定、形状検出など、品質安定を目的にセンサリング項目は従来比増の60以上あり、ビッグデータをIOT化し品質向上、生産性向上、予防保全

